

石狩川流域委員会（第4回） 議事要旨

■日 時：平成29年7月26日（水）13:00～15:00

■場 所：南ふらの情報プラザ 1階イベントホール

■出席者：黒木委員長、中村副委員長、井上委員、上田委員、片石委員、定池委員、清水委員、山田委員（以上8名）

■議事要旨

(1)平成28年8月洪水および災害復旧工事状況報告

・金山ダム貯水位と河川水位について、地元の方にもわかるようにもう少し説明される必要があると考える（委員長）

→次回お示しする。（事務局）

→ダムの貯水池のピーク水位が決壊箇所に対して低いので、せきあげ背水のような形は考えにくい。（委員）

・災害復旧工事のみではなく、営農や工場等の地域の産業の復興状況についても教えて頂きたい。（委員）

→次回整理してお示しする。（事務局）

・北海道管理区間や支川からの影響がどの程度であったか知りたい。（委員）

→支川はデータが少ないが氾濫計算などが可能であれば実施して影響を検討して頂きたい。（委員長）

・ダムの事前放流がどの程度ピークに効果があったかを教えていただきたい。（委員）

→次回お示しする。（事務局）

・復旧している期間中に洪水があった場合どうなるのか。避難の判断に役立つ情報等についての地元自治体へサポートされる部分を教えて頂きたい。（委員）

→現状は、原型復旧による整備を行っている。護岸を敷設するなど昨年時点よりは強化されている。しかし、ハード的には今回の整備計画見直しの議論を通じて、目標を定めて今後対応していく。ソフト的対策は、すでに南富良野町と密に情報共有などを進めており、引き続き連携して実施していく。（事務局）

・イトウの産卵床の情報を教えていただきたい。出水前後で産卵床がどうなったかのデータがあるかを教えて頂きたい。（委員）

→12月にイトウの生息状況は金山ダムで確認しているが、河道には産卵床がなかったことを確認している。(事務局)

→イトウの保護条例が出されている南富良野町でデータを持っているのであれば確認していただきたい。(委員長)

・堤防決壊について、他河川との違いなども含めた整理はされているのか。(委員長)

→堤防調査委員会について、他河川と共同で行った。その中で浸透流解析などを行い、安全性は確認した。空知では他の河川に比べて、粗い材質であり浸透よりも越流に弱いものであり、今後はこの点を踏まえた整備が必要。(事務局)

・今回の出水における河床高変化はどの程度であったか。(委員長)

→次回お示しする。(事務局)

(2) 空知川河川整備計画の見直しについて

・現行整備計画 P30 の流量配分図では金山ダムの上流について流量の記載がないのはなぜか。(委員)

→整備計画での目標は整備を行うための目標であるが、金山ダム上流については、既に整備が完了し、その後洪水による被害が発生していないことから整備予定がないので目標を設定していなかった。計画流量としては、ダム計画時に設定した1000m³/sであり、1000m³/sで河道整備が完了している。(事務局)

・今回の議事のまとめとしては、P19の課題と目標についてだと思うが、超過洪水に関してはどうしていくか。(委員長)

→今回は1400m³/sという実績値を目標設定にすることと、目標に対しての対処が必要ということの確認が議論の主になると思われる。また、ダムの設計洪水流量については整備計画目標流量ではなく、これよりも大きい基本方針流量で考えていくものと思われる。(委員長)

・自分の流出計算の結果を紹介すると、金山ダムの流量については同程度の流量であったことを確認している。台風が連続したこともあって、流出率も大きくなっていったと思われるので、そういう観点からも同規模の降雨に対しては危険側で設定していると考えられる。(委員)

・ダムについて、今回はピーク流量が大きかったが細いハイドロであり、太ったハイドロの場合はどうなるのか検証しておく必要がある。河道はピーク、ダムはハイドロの形で効いてくるがどのような検討をしているか？(委員長)

- 複数パターンで試算しており、ハイドロが太っているS50年洪水やS56洪水では、但し書き操作には至るが、ダム最大の放流量以下であることは確認している。(事務局)
- ・河川利用施設において、河川の仕組み等を実感できるようなものも整備していくと、河川や防災を身近に感じていただけるのではないかと。(委員)
→既存の施設やイベントなどではパネル展示等の啓蒙活用を行っている。(事務局)
 - ・今回の災害復旧はどの程度の流量対応となっているのか。(委員)
→現行の計画流量である1000m³/sである。(事務局)
 - ・直轄区間と補助区間の整合はどのようにするのか。(委員)
→管理者間の調整はお互いに考えており、整備計画での議論を踏まえて実施していく。(事務局)
→北海道管理区間の情報は合わせて示して頂きたい。(委員長)
 - ・流木について、広葉樹が多いように見えたが、どの程度の流出があったのか把握されているか。(委員)
→河畔林は相当流されているが、山地については把握できていない。現地を見ると、山腹崩壊ではなく河岸が相当広がった印象であるが、河畔林なのか山腹の根元の樹木なのかの判断は難しい。上流に引っかかっている分は把握できていないが、金山ダム湖に流入した量は把握しているので、次回報告する。(事務局)
 - ・P19の3点目について、人口減少については地域産業の担い手の減少・地域防災力の低下、高齢化についてはサポートが必要な方も多いが地域産業の担い手でもある。また、観光交流人口も多いということで、地域住民の命・生活を守るだけでなく、観光客、交流人口を守るという事の対策がより必要になってきており、多言語化も含めて、多様なサポートを行っていくということが含まれているということでしょうか。(委員)
→その通りである。(事務局)
 - ・昨年、町の避難所の半分は浸水したとホームページで確認している。高齢者は避難にも時間がかかることから、これらも踏まえたソフト対策を考えていく必要がある。また、河川巡視や危険箇所等の把握のために管理用通路がない場所についても検討を進める必要がある。(委員)
 - ・P19の2点目について、金山ダム上流の流量1400m³/sの設定に異論はないが、設計洪水流量を超えるダムの安全性のために、どのようなことを行っていくのか。(委員)

- 現状可能なのは、あらかじめ貯水位を下げて容量を増やすことになるが、具体的な対応は今後も調査検討を行っていく必要がある。(事務局)
- 設計洪水流量を超過しているということであれば、ダムが手放しでも大丈夫ということにはならないと思われる。ダムの対応策について、この場で細かい議論は難しいかもしれないが、今後の調査・検討についての提言は行えると考えている。(委員長)
- ・P19の3点目は氾濫した後の対応であるが、どの程度の洪水に対応したソフト対策としていくのか。(委員)
 - ハード的な対応は整備計画目標流量と考えているが、ソフト対策についてはハード対策の目標を超過した場合の対応を考えていくことになる。想定最大規模としては、L2規模の浸水想定が考えられる。(事務局)
- ・水位の観測網についてはどう考えていくのか。洪水中の水位を見ると欠測しているなど、脆弱性が見受けられる。(委員)
 - 構造的にも強化していかなければならないと考えている。また、CCTVカメラから水位を確認できるような方法も考えられる。(事務局)
- ・平時の普及啓発や災害時のホットライン等の情報提供の配慮は、幾寅地区だけではなく空知川流域5市3町に対してと考えてよいか。(委員)
 - 情報提供の方法なども考えてホットラインの整備を札幌開建で行っているので流域全体が対象になると思われる(委員長)
 - その通りである。管内流域全市町村が対象と考えている。(事務局)

(3) その他

- ・今回のご意見を踏まえ、課題への対応策について検討し、次回ご意見を伺いたい。次回は2ヶ月後くらいとなる予定である。(事務局)

以上